

# 8年を振り返って

滋賀県立大学生協 専務理事

梅田 保誠



2000年秋にISO14001の自己宣言に向けて、キックオフしてからさまざまな困難を乗り越えてようやく2002年10月に自己宣言を行いました。電気・ガス・水・廃棄物をはじめ、紙類やレジ袋などの削減、および地産地消の取り組みも徐々に進んできています。

8年あまりの取り組みの中で、多くの学生さんやパート職員のがんばりで運用を継続できたことは大変に大きな意義を持つものといえます。また、県立大学の先生方や全国大学生協連合会・大学生協京都事業連合からもアドバイスをいただき、ありがとうございました。

学生さん（EMO）と生協職員が一体になり、手探りで作り上げてきましたがお互いに知恵を出し合って進めた結果が環境負荷の軽減と、作業改善につながりました。例えば、鍋を洗うときには湯を少量しか使用しない手順を考えて、「楽」「早い」「低コスト」の方法を模索しながら行いました。学生さんも授業の合間をぬって生協に来て構築作業に取り組んでくれました。膨大な作業量の多さの中で完成させるのは頭の下がる思いです。1・2回生だった学生さんも活動を通じて大きく成長されたことが実感でき、卒業時にはともに喜び合える時間を持つことは大学生協で働く我々にも幸福なことです。

これまでの取り組みの中で感じたことは、目的・目標を持って行動することの大切さ、自分達で決めたことを達成させるという意識が重要です。また、それを人に伝えること、わかりあえることが環境への取り組みに限らず全てのことに共通することと思います。

今後も、滋賀県立大学生協は環境への取り組みを通じて、「意識」を高め、生協活動に活かしていきたいと考えます。